

派遣状況報告書

派遣者氏名	東方真理子
所 属	学部・研究科 学科・専攻 学 年
	新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻 2 年
派遣期間	2010年 09月 01日 ～ 2011年 08月 31日 (12 ヶ月間)
派遣状況	1. 派遣先：
	(1) 大学名 シュツットガルト大学 (ドイツ)
	(2) 学部学科・研究科専攻名 社会学部
	2. 派遣中の研究及び授業の履修状況等
	(1) 派遣中の研究及び授業の履修状況
	留学前半においては、9月から10月にかけて約200時間におよぶ集中ドイツ語クラスを受講した。これは、シュツットガルト大学への留学プログラムでは、他国からの留学生も受講することが必修であり、受講修了後も定期的に受講するシステムとなっている。他の授業は、おもに、修士課程の学生が受講する、ゼミナールへ参加し、他の学生それぞれ異なるテーマでの修士論文内容について議論した。また、シュツットガルト大学での担当教授より定期的にアドバイスを受けながら、自分自身の修士論文内容を深める努力をした。さらに、自身の研究を追究するために、フィールドワークに相当する科目を履修し、研究対象である、「森の幼稚園」を実際に訪問した。これは、一か所のみならず、ドイツ国内のいくつかの森の幼稚園を訪問し、教員や園児、その保護者、また、行政関係者など、森の幼稚園にかかわる人々に聞き取り調査をおこない、知見を広げていった。6月には、森の幼稚園関係の学会に出席し、ドイツの各州の森の幼稚園理事会関係者や森の幼稚園にかかわる研究者など、さまざまな人たちとの接点を持ち、意見交換をおこなった。
	約一年間の留学期間中に、研究対象である幼稚園の子どもたちの保護者や教員などのかかわりが多くあり、大学での研究以外にも、一般的なドイツ人の過ごし方、生活様式、文化、考え方などを体験をもって知る機会が与えられた。大学機関での学問だけでなく、ドイツで経験、体験したすべてのことが総合して、修士論文執筆のための糧となると思う。

派遣状況	(2) 派遣中の成果・課題
	<p>研究対象である、森の幼稚園の「要素」について考え、導き出すことができた。これは、ドイツ国内でも研究途上である分野であり、ドイツの森の幼稚園関係者らに、研究の成果を提示、提供することができた。ベルリンの森の幼稚園関係者は、秋にオランダで開かれる国際学会で、東方が導き出した森の幼稚園要素モデル図を用いて発表する意向を示していた。</p>
	<p>今回のドイツ留学中に、「森の幼稚園」に関する本の執筆依頼があり、ドイツの森の幼稚園を支える仕組みにかんして、本の一部を執筆させていただいた。2011年秋に日本で出版されることが決まっている。</p>
	<p>今回の派遣目的は、ドイツの「森の幼稚園」を社会学的側面を中心に多角的な側面から研究することであった。そして、ドイツの「森の幼稚園」全体の実態を明らかにするため、その背景であるドイツ人の日常生活や文化などを体験することも視野に入れていた。森の幼稚園が、ドイツ社会の中でどのような仕組みや人に支えられて成り立っているのか、文化的背景はどのようなものなのか、ということについて、ドイツ人生活に実際に入りこんでリサーチができたと思われる。その点では、目的を達成できたといえる。</p>
	<p>派遣先のシュツットガルト大学は、建築やエンジニアリングなどの分野が強い大学であり、社会学分野はそれほどではなく、文献なども思うように探すことができなかった。また、専門の教授陣も少なく、学問上での十分な議論ができなかった。そして、研究の最も対象としていたラインバッハという町の森の幼稚園からは、遠隔地に大学があったため（属する州が異なる）、頻繁に通うことができず、思うようにフィールドワークができなかった。しかし、その分、さまざまな地域の森の幼稚園を訪問することができ、また、地理的に広い範囲でのドイツ人の文化や日常生活に触れる機会を得ることができ、新たな収穫を得た。シュツットガルト大学は、今後、社会学などの文系の専門はとりやめ、理系の分野の専門大学となっていく可能性が高いという情報が地元の新聞で報道されていた。留学生としては、アジア系の学生も多いが、アジアから来ているほとんどの学生が中国系で、日本人学生は、ごく少数であり、英語、ドイツ語習得環境は適している。</p>